

社会科授業の分析的研究

——特に言語的コミュニケーションと習得の関係からみて——

五泉市立五泉中学校教諭 阿部政雄

I 研究問題

授業は教材を介して或目標に向かう教師の教授活動と生徒の学習活動の統一的な過程といわれ、教師の生徒に対する目標・教材の提示、生徒の教材に対する取り組み、教材を媒介とした教師と生徒の相互交渉の三側面が複雑にからみ合って相互補完されていると考えられる。指導内容の構造的把握や資料の精選等の問題の重要性は当然である。しかし右の事柄に裏づけられた教師と生徒間の言語的コミュニケーションがベターであればもっとよい授業になると思う。教師が周到に立てた授業のプログラミングは生徒の心の動きにマッチし、教師と生徒の双方向的な語り合いとなったとき、生徒がよく思考し、柔軟な授業になると思う。「授業はコミュニケーションである。」《木原健太郎、波多野完治》という考えに私は興味をもつ。

今日の社会科授業には自分を含めて教師のいっぽう的な講義を静かに聞いてノートする傾向がみられることは否定できない。受動的だから成績が伸びない。これが私の関心事である。小論はこの言語的コミュニケーションの面から、ごく通常の授業を分析し考察を加える。

II 研究方法

本研究は概略次ぎのような方法をとった。即ち、発達的にみて授業中最も発言の少ない中学3年生の11学級中から4学級選んで4人のベテラン男性教師にごく通常の状態、指導法で授業をしていただいた。ただし(1)指導目標、内容 (2)資料 (3)指導時間数 (4)事前指導などを厳しく条件統制した。授業直後テストを実施して、4学級各25名の等質群を編成しこの群に限って、テスト結果を処理した。他方、授業を記録しこの中、特に言語的コミュニケーションの面に限って分析を試みた。そして生徒の習得した結果の中、著しく差の大きいものを拾って、それと対応する教師・生徒間になされた言語的コミュニケーションを分析し相互の関係を考察した。以下、右の方法上の主要点を補足する。

1. 指導目標、内容、教材；資料の統制

(1) 主題「景気とはどんなことか、景気の変動はどうして起こり、どんな影響を及ぼすか。」(日書P132～P134)

(2) 目標「資本主義経済特有の現象である好景気、不景気を概観してその意味を把握し、好景気→不景気→好景気と景気変動が起きる原因を理解し、経済全般にどんな影響するかを身近な現象を通して考察させる。」

(3) 内容

ア (内容1)——好景気とはどんな状態のことか。

＜おさえる要素＞ 生産、出荷、在庫、事業所数、雇用、賃金、需要、金利、物価、設備投資

＜使用する資料＞ 中3日書 P132, 133のグラフ

イ (内容2)——不景気とはどんな状態のことか、またどうして起きるか。

〈おさえる要素〉 滞貨, 生産過剰, 倒産, 失業, 社会不安

〈使用する資料〉 同書P132, 133のグラフ

ウ (内容3)——なぜ景気の変動が起こるか。日本の景気変動はどんなか。

〈おさえる要素〉 回復, 好景気, 恐慌, 不景気と連続した波である。

国の政策で振幅が小さくなるような景気調節をしている。

エ (内容4)——景気変動は国民の経済生活にどんな影響を及ぼすか。

〈おさえる要素〉 企業の倒産, 失業

2. 授業直後テストの問題

(1) 問題の構成 上記に統制した指導内容, 要素, 使用した資料, 目標にマッチした問題を構成し, 主として自由記述式に解答を求めた。

(2) 問題の内容 表6参照

3. 等質群の編成

(1) 等質群 本校3年11学級中, 学級平均点が約同じ4学級に条件統制をし, 11月中旬4教師が授業してくださった。各学級に等質群を編成し, 直後テストはこの等質群に限定して処理集計した。この等質群は①新田中B式のS, S ②社会科の一学期中間, 期末評価の平均得点を指標に1対1で拾い出し, 各学級当り上位群7名, 中位群11名, 下位群7名 合計25名で編成した。

(2) 検定 4等質群はコクラン検定を施したら, $F_0 = \frac{U^2 \text{md}x}{\sum U_i^2} = 0.2901$, $F_\alpha = 0.4366$ (コクランの表から) であり, $F_0 < F_\alpha$ であるから等質であるといつてよい。

4. 授業記録

(表1 授業記録A)

分秒	教師の発言	生徒名	生徒の発言
1.20	①今日の勉強ですね。資本主義経済では景気変動は起こるだろう。またその景気とはどんなことか。なぜ起こるのか。どんな影響を国民の生活に及ぼすのか。という問題です。みんなでこの疑問に答えようとするわけです。ではまず景気とはどんなことなのか。ちょっと関係する部分を読んでみてください。〔問題点を板書する。生徒教科書を目読〕		
3.40	②景気にはどんなのとどんなのがありますか。二つあるようですね。Sさんどうですか。 ③そうですね。好景気と不景気ですね。で私が二つに分けて各項目を書きますから、君たちは各々について考えて答を入れてみなさい。〔表を板書する。生徒はこれをノートする〕	S	①好景気と不景気。

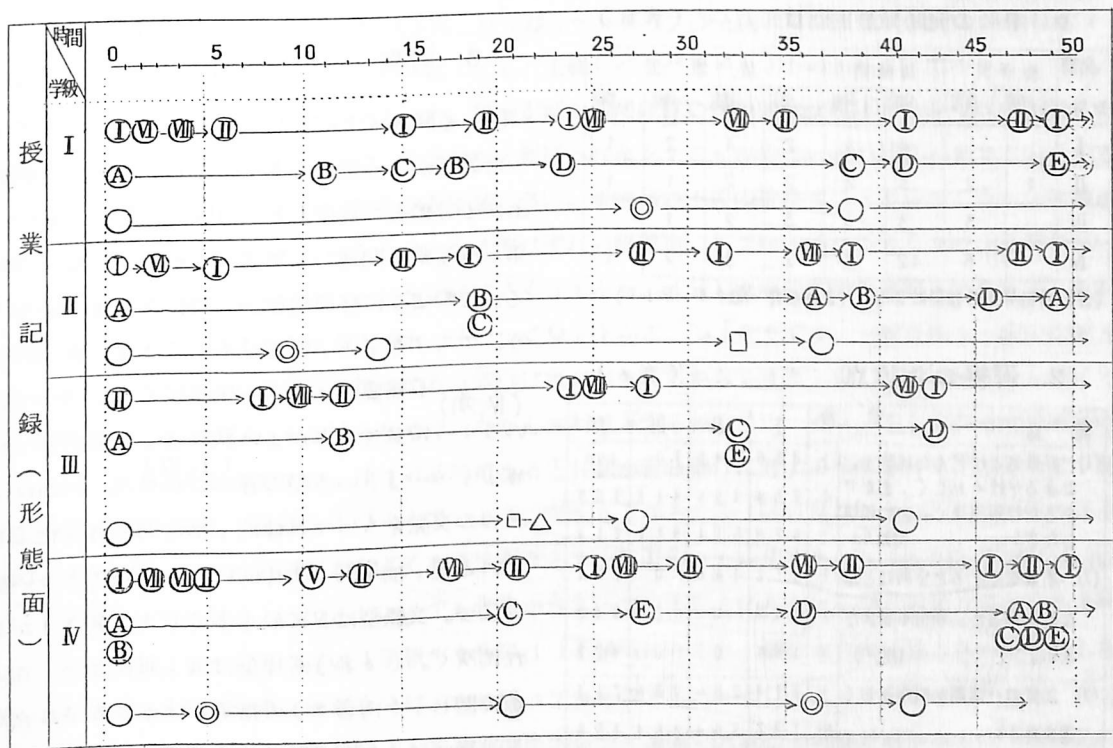
5.15	④ちょっと。書く前にどんな項目がわからないか。 ⑤M, お前は何がわからない。 以下略	Pn	②出荷, 在庫, 金利 [みんなぶつぶつ言う]
------	---	----	------------------------------

Ⅲ 研究の結果とその考察

1. 4 学級の授業の概要

(1) 授業の流れと形態からみた相違点

(表2 授業記録B)



(2) 発問, 応答などの相違点

ア 成績段階別被指名応答の頻度数 (表3)

イ 発問応答(reciprocal communication)の
類型別回数 (表4)

学級 成績	I	II	III	IV
5	○○○○○○ △△△△△ ◎	○○○○○○○ △△△△△ ◎	○○○○○○○○○ △△△△△ ◎	○○○○○○○○○○○ △△△△△ ◎

r.c.の タイプ	説明	学 級			
		I	II	III	IV
①T→P	Tが一生徒に問いかけ Pが応答する。	18	12	13	31

4	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
3	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
2	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
1	○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎		○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
T→Pの計	18回	12回	13回	31回
不特定多数の一声発言やPnクツション			「いいえ」	「ます・ふへる」「さがる」「失業」

(註) ○被指名 ◎応答 △無答

② T→Pn→P →T	Tが全生徒に問いかけ、間を置いて一生徒を指名し、その生徒が答える。	3	2	2	9
③ T→Pn→T	Tが全生徒に問いかけ、不特定多数の生徒が一斉または自由に応答する。	2	2	2	6
④ P→T→P	一生徒が自主的に質問してTがそれに答える。	0	0	0	1
⑤ T→P	Tが一生徒に発問したが、答えない。	4	5	4	10
⑥ T→Pn	Tが全生徒に発問したが、応答が無い。	4	5	3	4
⑦ T Pn (f. b) P → T	Tが「言いたいことを言う」「あとはどう思う」と問いかけ、Pの頭脳を刺激させる。(feed-back)	2	1	1	5

(註) T・教師 P、生徒

ウ 教師の発問類型別回数 (表5)

発問 学級	検査問		開発問		試験問			
	①予備問	②復習問	③分析問	④発展問	⑤決定問	⑥補充問	⑦強化問	⑧整理問
I		5	4	6	2	4	2	1
II	1	2	3	2	2	2	1	1
III		3	3	3	3	2	1	
IV		5	12	6	2	3	2	1

(註) 村田昇氏の類型による。(道徳教育 NQ48 P17)

2. 習得の相違点 (表6)

問題	学級	I	II	III	IV
(1) 好景気とはどんな状態か。できるだけくわしく、またできるだけ順序よく自由に説明しなさい。(NQ6)	上	8 5.6	7 4.5	7 0	100
	中	9 0.9	4 5.5	8 1.8	9 0.9
	下	5 7.0	5 1.1	5 1.1	7 1.4
(2) 不景気になると金利はどんなに変わるか。理由も書きなさい。(NQ7)	上	5 7.1	1 4.6	0	7 1.4
	中	1 4.6	0	0	5 4.5
	下	1 4.6	0	0	4 2.8
(3) 景気の一周期を順序正しく書きなさい。(NQ12)	上	7 1.4	2 8.6	7 8.6	7 1.4
	中	7 2.7	3 6.4	3 6.4	4 5.6
	下	2 8.6	0	4 2.8	0
(4) 景気変動はどんな経済のしぐみの国に起こるか。その原因も書きなさい。(NQ13)	上	5 7.1	1 4.6	7 1.4	100
	中	9 0.9	0	3 6.4	8 1.7
	下	2 8.6	0	0	2 8.6
(5) 不景気になると生ずる大きな社会、経済問題を二つ書きなさい。(NQ14)	上	2 8.6	4 2.8	0	8 5.6
	中	5 4.5	1 8.4	1 8.4	7 2.7
	下	1 4.6	0	0	2 8.6
(6) 次のグラフをみて、指示した年代の好景気又は不景気の原因を書きなさい。(NQ15)	上	4 2.8	2 8.6	4 2.8	7 1.4
	中	7 2.7	1 8.4	1 4.2	5 4.5
	下	2 8.6	1 4.6	1 4.6	1 4.6

(註) 数字は正答率

3. 考察

(1) 《問No.6》に対して、『需要が多いので作った製品がよく売れるようになる。すると利潤が上がり労働者の賃金も上がり家計は楽になる……第三次産業も関連して繁昌し、みんなが職につける。このように経済活動が活発になるようすをいう。でもすぎると、物価は上がりまた不景気になる。』、『需要がふえる→生産多くなる→……』というように金まわりがよい状態』、『需要多、在庫少、……』という型の答がつかめた。いわば、一つの文脈をもって具体的、構造的に外言化できている型、抽象的、断片的にしか表現できない型の二つ。文脈型はIVに最も多く(17名)Iがこれに次ぐ。(6名)断片型はII、IIIに多い。この点に関し、(内容1)の指導がいかになされたか。IV学級ではこれを本時の重点事項の1つと捉えて「今日の勉強はですね。資本主義経済では景気変動は起こるか。起こればその景気とはどんなことか。……」と、仮設的に問題を提示し、生徒の知的欲求を喚起している。のち教科書(資料)の関係箇所を黙読させて発問によって「好景気」と「不景気」を引き出し、これを対比させながら、各項目によって生徒各人に書きこませている。その前に、「主な項目チョット確かめてみよう。M君

出荷というのはどうだね。」＜M, 工場から商品を出すこと＞「そうだね。工場から製品を荷づくりして問屋へ送り出すことですね。じゃ、設備投資ということは？(Pn) わかる人、……W君。＜W, 工場の設備をよくすること＞「うん。工場の設備や機械をよくするために資本をつぎこむことです。」と用語の定義を問答の中で明らかにしている。「言葉の背後の現実」《W, オコン》を又は「コトバに關係する経験」《A・ラポート》を教師と生徒で預け合う配慮がうかがえる。だから作業の後の問答は「では好景気だと出荷はどうなる」……＜(Pn) 増す, ふえる, 増加する。(つぶやき, 内言の湧出)＞「そうだね。とぶように売れるからね。」「設備投資は？」＜(Pn) 増す, ふえる。＞「どうして。」＜もうけるために工場を拡げるから。＞「そうだね。在庫は。」…「Hさん」＜H, 減ります。＞「どうして。」＜H, やはりよく売れるから。＞「そう, 売れるからね。工場数は。」＜(Pn) ふえる増す。(つぶやき, 内言)＞「メリヤスをするともうかるそう。じゃ俺も始めようか。自動車学校もうかるそう。今はこの郷で一つだけど, 将来二つ, 三つにもなるかもしれない。それはわからない。ともかく企業数は増すね。」＜(Pn) は, は, は, ……笑う。＞と流れるように発展する。教師は「用語」で話を進めている。もはやこれは, コトバ主義(バーバリズム)といわれまいだろう。

(2) 《問167》に対して、『高くなる。預金が減るので銀行の資金量が少なくなるから。また貸すにあふないから』(Ⅳ上の男), 『上がる。不景気だと銀行へ貯金をする人が少ないため銀行にあまりお金がないので』(Ⅳ下の女)と正答するものがⅣ学級に多い。Ⅲ学級の上位の生徒でさえ『少なくなる。生産過剰となり在庫の滞貨が多くなるから』と全般的はずれの誤答をしている者が少なくない。正答の多いⅣ学級の言語的コミュニケーションを記録でさぐってみる。「貸した金の利子を金利というのでしたね。好景気になると金利はどうなりますか。」……＜O, 下がる。＞「そうです。一般市民も一般の企業も金を多く持っているので銀行に預金する。銀行は資金がふえるから, また, 貸しても安全だから誰にでも貸そうとする。銀行はもうけるために。だから金利は下がるね。」……＜U, でも上がるんじゃないですか。＞「どうしてですか。」＜好景気になると日銀が普通銀行に対する公定歩合を下げるので, 普通銀行も企業に対して金利を下げるんでしょう。だから下がる。＞「いい発言です。みんなはどう思いかね。」＜W, それは好景気がひどくなりすぎたときの対策じゃないですか。＞「なるほど。その通り」

「対策としてはUさんので正しい。でも先生が今きいていることはだんだん好景気になりつつある時のことです。」また正答の多いⅠ学級でも教師は「不景気になると, 銀行も利潤が減るため貸し出しを引き締める。また, 企業は倒産をさけるため競って金を借りる。こうしたことで金利は高くなる。」と自信をもって教えている。両教師とも生徒の理解困難点に遭遇した場合, 力強く自信をもって論理的に乗り切っていることがわかる。そこには「対象への認識についての信じ方を正直にある強さで主張されており, その言表はある目的をもってなされている。」《大久保忠利》

(3) 《問112》の問いに対して, 最も正答の多いⅠ学級では、『回復→好景気→恐慌→不景気』という回答が多い。これには多くの原因があろう。しかし要因は教師が明確に



の図を板書し

はしっかりと説明したからであろう。他の学級ではこれが弱かった。

(4) 《問113》の問いに対して, 最も習得されていない学級ではⅢの

1(1)の形態観察の結果からもわかるように終始, 好景気と不景気の状態の認識の指導がすんでいる。強いてこの問に関する箇所の言語的コミュニケーションを捜してみる。「あんた方の成績が上がったり,

下がったりするように景気の移り変わりがある。新潟のデパートに行った人あるでしょう。お客が多勢集まって玩具売場、又別のバーゲンセール、又別の食堂、その日の売り上げにも統計的にみると波があると思う。人間の血の循環と同じですね。心臓が拡張したり収縮したりしている。日本の景気もこれと同じですね。……」ある法則乃至原理を説明するのに比喻をとるのはよい。しかし比喻が大き過ぎたり、離れすぎたりすると原理の方が追いやられる。何を説かんとするのか判然としなくなる。「資本主義経済では生活手段の私有制を前提とし、…企業による商品の生産や流通は自由競争のもとで行なわれ、…社会全体として計画的に行なわれるわけでない。」《中学校社会指導書》という原理は、本時の指導には必ずどこかに構造づけられていなければならない。経済学習は事象に結びつけるが、原理の学習である。意味のあるコトバの筋はちゃんとしていなければならない。経済学習は事象に結びつけるが、原理の学習である。意味のあるコトバの筋はちゃんとしていなければならない。

(5) 《問14》に対して、Ⅳ学級では『倒産、失業』の正答が多い。この教師は不景気と好景気について諸項目から検討し答を出した上で、「特に不景気で、これらの中で広く社会の人々、経済界に非常に大きなショックを与える困った事は何でしょう。」……<(P_n)失業>「ほかに。」……<(P_n)倒産>と生徒に言わせている。そして下位の生徒に対しても、「M君、わかった。」「Sさん、どう思う。」「従って社会主義の国にはこれがありますか。…Bさん。…どうですか。」…<(B)ありません。>と教師と生徒のコミュニケーション回路をつないでいる。「君はどう思う？」と言つけ加えるだけで、無口なきき手である生徒も「瞬間に話し手になり、自我は触発、成長し記号の意味はその中で深められていく。」《加藤秀俊》ことは確かであろう。

(6) 《問15》に対して、正答の多いⅠ、Ⅳ学級とも、かなり発問、応答の多い部分である。(表2.3.4)どちらも、生徒の歴史上の「既知」に教師が巧みに「半知」《小川正》を捕え、癒着させながら発展、開発させている。「経済ではグラフの読みとりはたいせつだぞ。最初の好景気を示すピーク、1919年なんだ。」<第1次大戦>「戦争になるとどうして景気よくなるか。」<需要が高まるから>……「1950年ちょっとカーブが上がるのは。」「終戦後、国連軍が朝鮮……」<朝鮮戦争>「特需」……「1963年池田首相の所得倍増増政策による好景気。」「しかし最近は少し悪くなった。それを国が、国債発行、低金利政策の薬で治療している所だよ。」その上この教師は後さんじょばらいしないで、最初の仮説に各々答えたことを確かめ、各々の学習内容を連合している。これは「単なる用語解説的授業に終らず、大要、大筋を理解させる」《中学校社会指導書》上に役立っているだろう。

Ⅳ むすび

勿論、指導内容の構造的認識や指導過程の構造的な研究は重要であり、これなくしては学習指導は成立しない。しかし、授業は教師と生徒との相互作用をくり返して進行する。このとき、言語的コミュニケーションが中核となっていることは厳然たる事実である。これがリシブロカルな交流になれば、生徒の言語表現はよくなされ、従って思考も主体的に深まるであろう。コトバの意味は「思想がコトバと結びつき、コトバに体现される限り思考現象となる。」《ヴィゴツキー》からである。拙い研究から既に諸大家に指摘されている(1)実例や操作による「外延的定義」(2)「内言」を育てる指導(3)説明の真実性、論理性、構造性と強さ(4)「フィード・バック」(5)生徒に知らせるためにくふうした発問、「擬問」(Shein - frage)(6)生徒の人格を認めた「双方向対話」の問題が教育では大切であり実践に生かされなければならないと一層痛感した。本研究は端緒に過ぎない。自己改善の道として今後も歩んでみたい。